



境界あれこれ

10

～ 子どもに与えてよい便利さの境界 ～

かうんせりんぐるうむ かかし

河 岸 由 里 子

はじめに

科学の発展と共に、便利なものがものすごい勢いで増えている。人間にとってより過ごしやすく、より楽に、より労力を掛けないように、より素早くということで、随分様々な道具が作られた。

パソコン一つとっても、筆者が学生だった頃は、自分で、パンチカード一枚一枚にプログラムを打ち込み、それを読み込ませて動かしていた。もちろん自宅にパソコンなどあるはずもなく、大学のコンピューターを使った。打ち込み間違いでerror が出るとがっかりしたものだ。それが今では、ソフトが充実していて、自分でプログラミングをしなくても勝手に計算してくれる。データ処理も楽になった。

こういう便利さは、大人のためのものではないかと思う。物事がよりスムーズに、よりスピーディーに処理されるということは、経済活動上重要だろう。

しかし、子どももこうした科学の発達による便利さを享受していてよいのだろうかと思うようになったので、今回このことについて考えてみようと思う。

子どもたちが今享受しているもの

小学校では、まずコンピューターの授業がある。コンピューターの時代なので、子どものうちから慣れ親しむことが大事という考え方であろう。タブレットを使っている学校もある。物事を調べたりするときに大変便利であるし、早い。パソコンは図を書いたり、表を作るのも簡単に、綺麗にできる。文字を飾ったりすることも簡単だし、絵や図や写真を張り付けたりなどという授業も行っている。

しかし、本当にこういうものが子どもたちに必要なのだろうか？素早く、手間も掛けずに物事を

調べられることが必要なのだろうか？

何でもそつなく上手く出来るようにすることが、本当に子どもたちにとって良いことなのだろうか？

美術の授業で、写真から絵を描いたり、版画の下絵を描いたりしているのを見ると、確かに、全員の作品がそこそこ大きな差もなく出来上がってはいる。絵が得意な子はともかく、苦手な子でもあまり苦手意識を持たなくて済むようにという計らいもあるようだ。

では、歌や楽器の演奏ではどうなのか？歌や楽器については、上手い下手が歴然と出る。ここでは特に文明の利器を使って差が無いようにするという事はない。

家庭科では、ミシンがコンピューターミシンになっている所もあるだろうが、自分である程度布を動かさねばならないので、それなりに差が出る。アイロンかけや、縫うことについては、器用不器用の差が出る。料理もセンスや手の器用さが差を生むだろう。ロボットが料理もする時代になっているが、家庭科ではまだ子どもたちがゆで卵やみそ汁などを作っている。ここは今も昔も変わらない。違うのは自動発火のレンジになっている所か。おかげでマッチを擦れない子が増えた。

技術では、のこぎりを挽いたり、釘を打ったりは、当然器用不器用の差が出る。

科目によっては、どうしても差が出る物、調整が効くもの等があるが、なぜ差があってはいけないのか。みんなが平等で同じにすれば、それはロボットを製造しているのと同じではないか？等質、平均、能力にも差が見えないようにという配慮は、果たして子どもたちのためになるのだろうか？

それに加え、素早く物事を片付けていくことは、子どもたちにより素早さ、スピードを求めることになる。もっと早く、もっと正確となる。

しかし、子どもたちにとって本当に必要なことは、時間ではないのか？大人とは違う時間軸の中にいられることが、子どもが子どもとして生きる上で大切で、それを守ることが大人の務めではな

いのか。

ゆっくり考えたり、一つ一つ丁寧に調べたり、無駄が沢山ある状態が、子どもの世界ではないだろうか？

石ころを集めたり、ポーッと雲を眺めたり、ありんこの行列について行ったり、草や花や木や土や水、虫、鳥、魚、犬や猫、身の回りにあるありとあらゆるものに、気持ちを奪われ、あらゆるもので遊び、工夫し、遊びを作っていく。それが子ども。そんな時間は、殆どの場合、子どもの時にしか持てない。

特に小学校の間は、子どもたちにより多くの時間的ゆとりと、無駄と失敗を経験させることが必要だと思う。そういう意味では便利ツールを使う必要性はないのではと思う。

それから電子黒板。多くの小学校で導入されているが、この必要性も見ていてあまり感じない。先生方の仕事の負担を軽減することが目的であろう。

中学校に行けば、点数、成績、スピードが更に求められる。最近では英語の辞書も買わせなくなっている。誰かが電子辞書を持っていたら、それで引いてもらったり、教科書の後ろについている単語だけで済ませている。

誰もが経験があるだろうが、英語の辞書を引いていると、目指す単語以外のものに目が行ったり、国語や漢字の辞書を引くときも、別の言葉に気持ちがいつ、ずっと読んでいたりなどしてしまうことがある。これは、無駄なことなのだろうか？

中学校では、様々なことに苦手や得意があって、周りの子との差や違いを更にはっきりと感じるようになる。そこで、自己を作るときの指標を得る。自己評価を下げることもあるだろう。できればそういうことが無いように、本人の良いところを伸ばす指導が必要になるが、中学では高校入試という大きな問題もあるため、差は差として受け入れなければならないのかもしれない。

さて中学校ではどんな便利な道具を使っているだろうか？

パソコンはもちろん、タブレットも使っている。

その他は電子辞書、電子黒板くらいだろうか？

ただし、スマホの所持率は中学校に入るとどんと伸びる。塾に通ったりすることもあってか、連絡が取れるようにと親が買い与えることもあるし、部活動の関係で持つ場合もある。もちろん授業中にスマホを使えるわけではない。

スマホを非常時の連絡手段として用いるのは良いとしても、ラインやSNSなどを使いたい放題使い、マナー違反やいじめ、ゲームのやりすぎなど、問題だらけであるのに、今もなお保護者は子どもたちにスマホを買い与えている。スマホがあれば、なんでもネットで素早く調べられる。YouTubeも見放題。正しい情報も間違った情報も、知らなくて良い事まで様々な情報を得られる。爆弾の作り方まで調べられるのだ。

そして・・・

家庭においては、パソコン、スマホ、タブレット、一度に複数の番組を録画できるDVDプレーヤー、自動掃除機、声だけで色々やってくれるスピーカー等々。便利なものがあふれている。明るい電気、ヒーターや冷房で最適な温度の中で過せる。蛇口をひねればいつでもお湯が出て、シャワーもいつでも浴びれる。

電気炊飯器、自動ドア、エスカレーター、ウォークウェイ、自動改札、あれもこれも自動化が進み、車も自動運転が始まっている。

自動ドアが一般化した時、たまに自動ではないドアがあり、知らずにドアの前で立って開くのを待っていたことがあった。9月の地震の折、ブラックアウトで電気が使えなかったとき、ご飯を鍋で炊けた人はどのくらいだろうか？お湯を沸かせなかったために、水風呂に入った人も多かった。衛生的になったのは良いが、風呂を我慢することも出来なくなったようだ。

自動で慣れてしまうと、自動でないことに不満や不便を強く感じてしまう。便利さを享受することが悪いとは言わない。ただ、多くは大人のため

に発明工夫されてきたものである。

仕事の能率を上げるために、早く物事を片付けるために、そして余暇を作るためにと不便なものを改善し、より便利に、より速くと科学の発展と共に進化してきた。それは素晴らしいことだと思う。しかし、子どものためには、もう少し、我慢したり、努力したり、無駄な時間を費やしたりということが必要ではないか？

ブラックアウトした時、北海道の空は満天の星で彩られた。電気はとても便利だが、この空はもう二度とブラックアウトをしないなら、二度と見られないということになる。

不便さが、発展に寄与してきたのであるなら、便利になってある程度満足してしまったら、それ以上の発展が望めるのだろうか？大人になったらあれを使える、これも使える、そんな大人の世界へのあこがれも、子どもに大人へのあこがれを持たせられるが、今の時代、大人の世界を良いだけ見聞きし、或いは大人の世界にどっぷり浸かっていることまでである昨今、子どもたちは未来に何を作り出し、生み出すのだろうか？

あれもこれも便利になり、ほとんど動かなくても良くなれば、運動能力も下がる。もうすでに子どもたちの運動能力が下がってきていることに多くの人が気づいている。そして、スピードを求められる中で、ゆっくりな子どもたちが追いつけず、足手まといの扱いを受けている。面倒くさがり家の子どもたちが増え、仮想世界で遊ぶようになり、シックスパックの様に、ただつけていれば筋肉トレーニングが出来る物などがもっともっと開発されるのかもしれない。トレーニングマシンで、小さい子どものうちからトレーニングをしなければならなくなるのではないか？

空気洗浄機が空気をきれいにすればするほど、人は汚い空気に弱くなるだろう。

はっきりした境界があるわけでもないし、引くことも難しいのかもしれないが、見境なく与えることへの警鐘を鳴らすことで、子どもたちの世界を守りたいと思っている。